渡辺澄夫教授と別府大学

後藤重巳

大分大学を定年退職された渡辺先生が、別府大学に職を転じられたのは、昭和五十年四月のことであった。大学では、まず専任教官としての研究室の手筈を整え、旧史学科研究棟の二階、故林章先生の隣室を準備した。さしあたっての図書として『大日本古文書』『大日本史料』の既刊分全巻などを部屋に架設し、先生をお迎えした。

先生の担当科目としては、日本史特殊講義の中世、日本史演習科目の中世、卒業論文指導中世の三科目を新しく常設開講した。昭和五十二年春、第十一回卒業の西哲弘君(現県教委)ら数人が、卒業ゼミの第一回生であったと記憶している。

先生の研究室には、当初から堀枢氏が社会人研究生として出入りし、のち続いて天瀬の河津晃氏などが聴講生に在席し、若い学生とともに研究室で勉強したものである。

佐藤学園創設八十年・史学科創設二十年記念行事の一環として企画された『豊後国荘園公領史料集成』は昭和五十九年に、第一巻が刊行され、以降十二年を要して昨年、本編を完了したが、期待の総索引が未完のまま、先生は急逝された。

先生は、話し中に手を振られる独特のジェスチャーをされたが、言葉遣いもまた個性があった。老若相手構わず「……ああ、そうナ」や、「おおきに」調で話されていた。それも今は懐かしい思い出となった。渡辺先生のご冥福をお祈りしたい。

(別府大学教授)